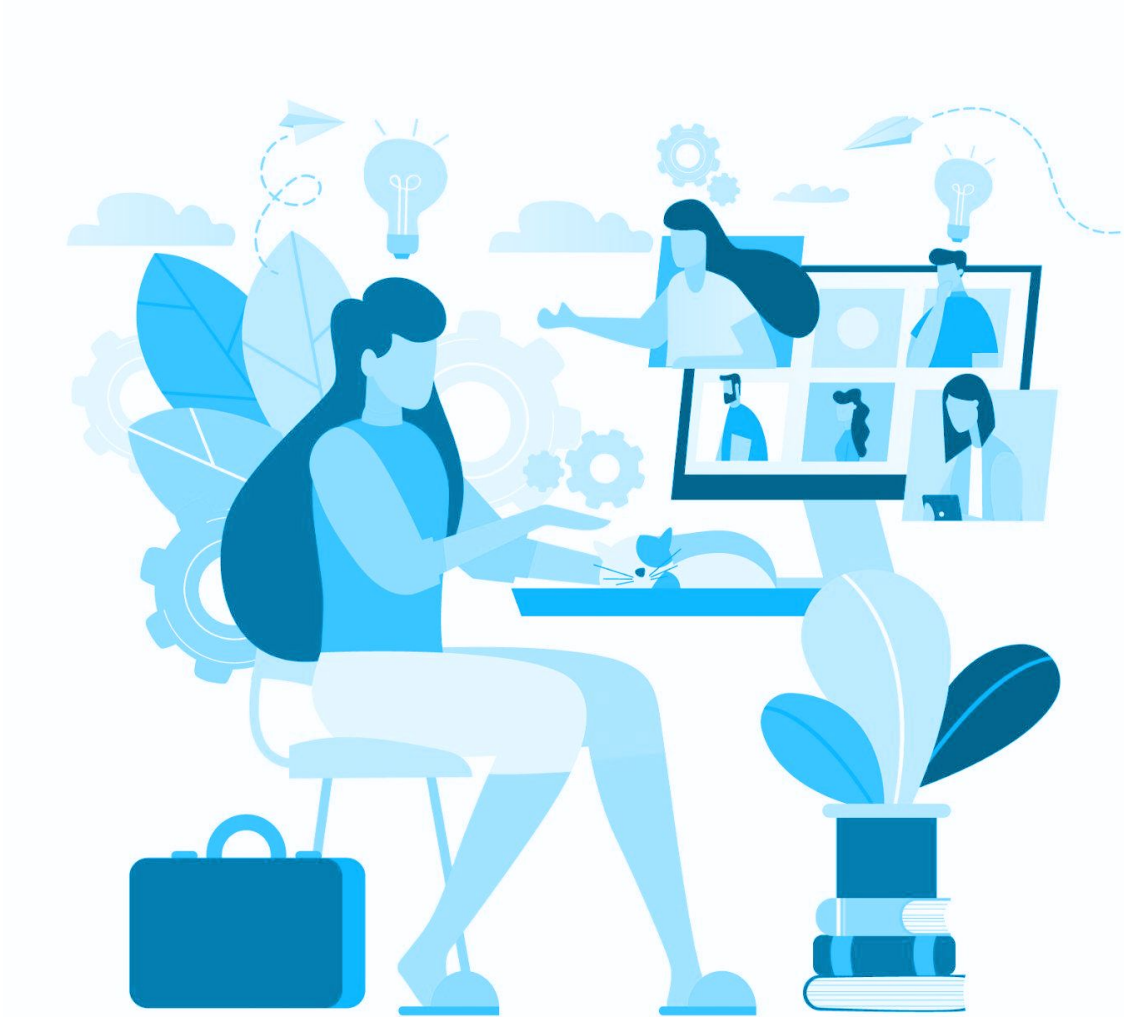




人的資本経営時代における パフォーマンス向上に向けて

ハイブリッドワーク時代の従業員と
企業の幸せな働き方のご提案

2024/07



① Acallのご紹介

会社の概要

② Acallの課題認識

人的資本経営時代における働く「人」と「場」のマッチングの必要性

③ PX (People Experience) 機能ご紹介

「働き方」の可視化・強化

④ FX (Facility Experience) 機能ご紹介

「働く場」の可視化・最適化



① Acallのご紹介

会社の概要

② Acallの課題認識

人的資本経営時代における働く「人」と「場」のマッチングの必要性

③ PX (People Experience) 機能ご紹介

「働き方」の可視化・強化

④ FX (Facility Experience) 機能ご紹介

「働く場」の可視化・最適化



Acall株式会社

設立

2010年

代表

長沼 齊寿

事業内容

Acallの開発および提供

所在地

東京オフィス (東京都港区六本木七丁目15-7 新六本木ビル6F)
神戸オフィス (神戸市中央区加納町 4-2-1 神戸三宮阪急ビル 13階)
シンガポールオフィス (20 Anson Road, #11-01 Twenty Anson, Singapore)

グループ会社

Acall Asia Pte. Ltd.

主な株主

ジャフコ、EmeliencePartners、Genesia Ventures、
DBJキャピタル、東急不動産、阪急阪神不動産



Acallは、考えつづけています。

人々の「くらし」と「はたらく」を、
もっとよくするためにできることを。

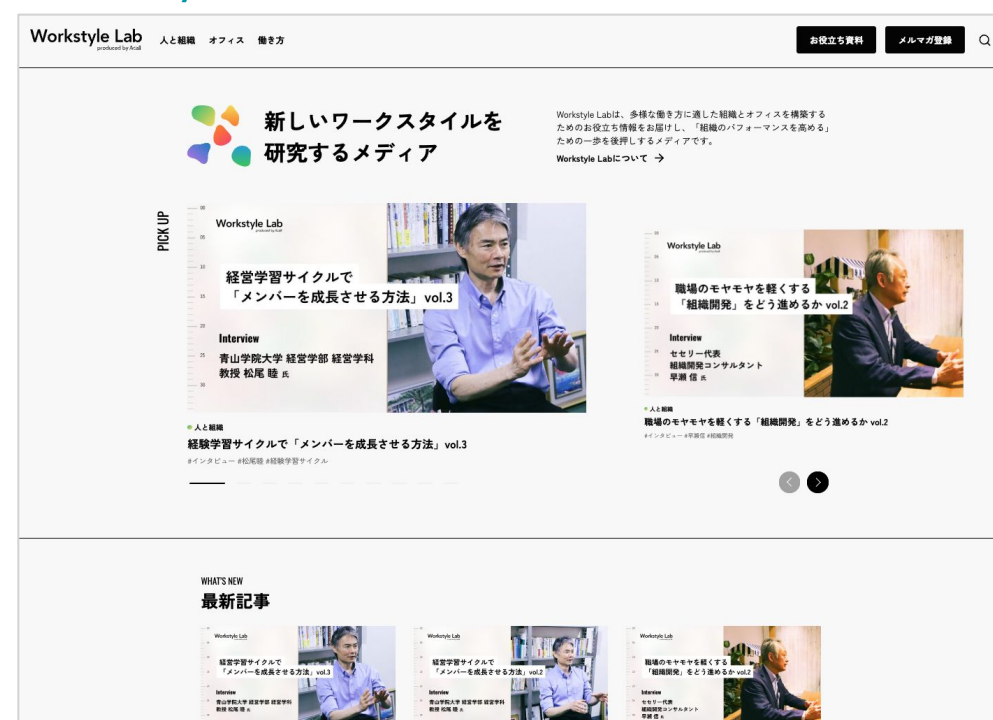
Life in Work and Work in Life for Happiness

私たちは、テクノロジーを通じて、それぞれの人々にとっての「くらし」と「はたらく」をデザインする豊かな世界を実現します。

オフィスのチェックイン体験のデジタル化からスタートし、働き方DXの推進へと拡大、フレキシブルな働き方を支え、パフォーマンス向上を支援する事業を展開しています。

FX事業部、PX事業部発足
(2024年2月)

新しいワークスタイルを研究するメディア
[Workstyle Lab](#)もスタート (2024年5月)



グローバル1.0：東南アジア

ピープル) リモートワーク1.0
：居場所の共有

リモートワーク2.0
：多様な働き方を支える
パーソナル・コーチング

ファシリティ) フリーアドレス

ファシリティ) 会議室

スケジューラー連携
機能改修期間

スペースと人の
マッチング
(AI/分析)

ファシリティ) 受付・エントランスゲート

2016

2018

2019

2020

2021

2022

2023

2024

2025

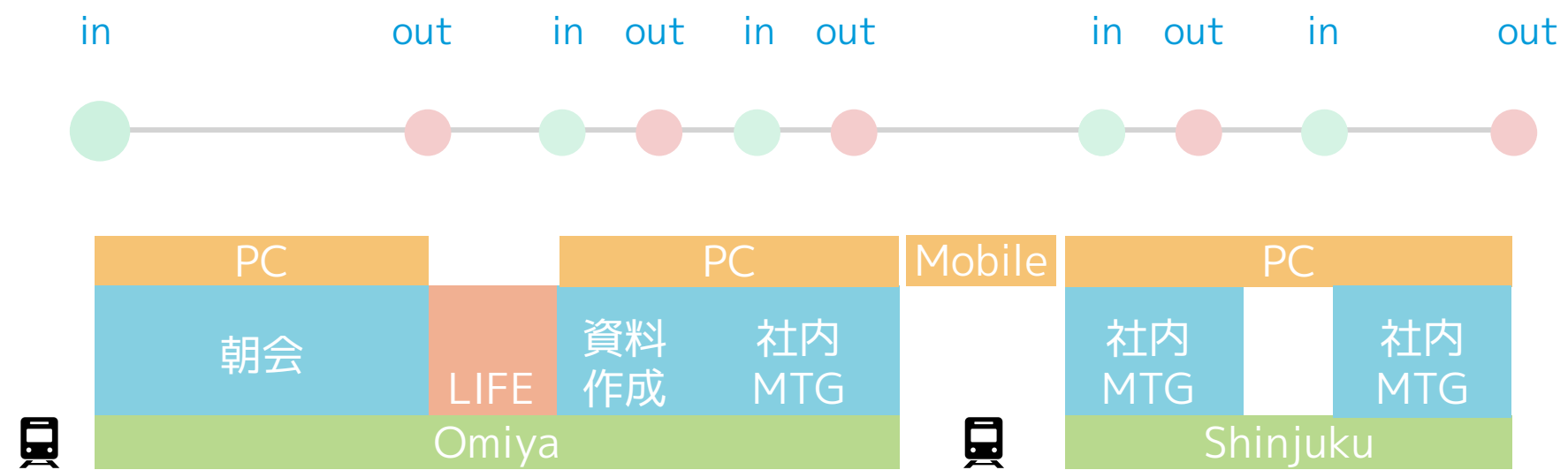
人と場をマッチングし、働き方をサポートするOS



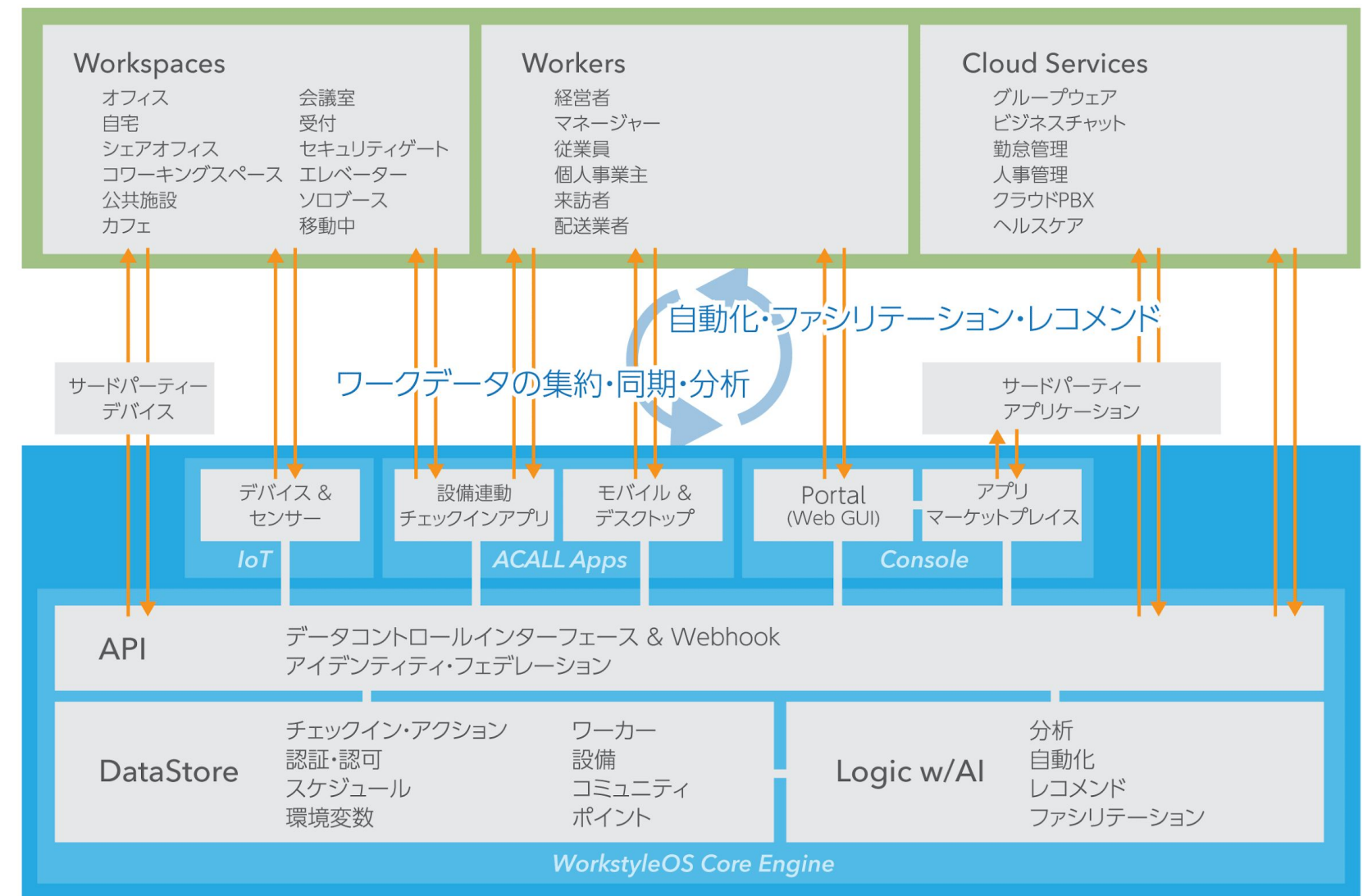
はたらく情報（チェックインデータ）を集約・同期・分析しフィードバックループを形成することで、パフォーマンスの高い働き方をサポートしています。

チェックインデータという考え方

行動の起点と終わりであるチェックイン/アウトのタイミングで、データ取得を行い、フィードバックを返すことで、意識変容や行動変容を促します。



Workstyle OSで各データを集約・同期・分析



導入企業



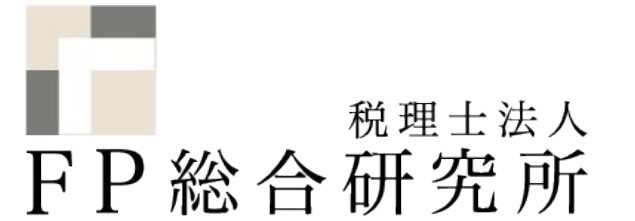
大手企業、金融機関、メガベンチャー企業、大手不動産との取り組みなど、数百名から数万名までエンタープライズ企業での導入実績が豊富です。



サッポロ不動産開発株式会社

KOKUYO

AEON TOWN



JAFCO



RD SUPPORT



LINE



sansan



三鷹市



エアトリ



Francfranc



① Acallのご紹介

会社の概要

② Acallの課題認識

人的資本経営時代における働く「人」と「場」のマッチングの必要性

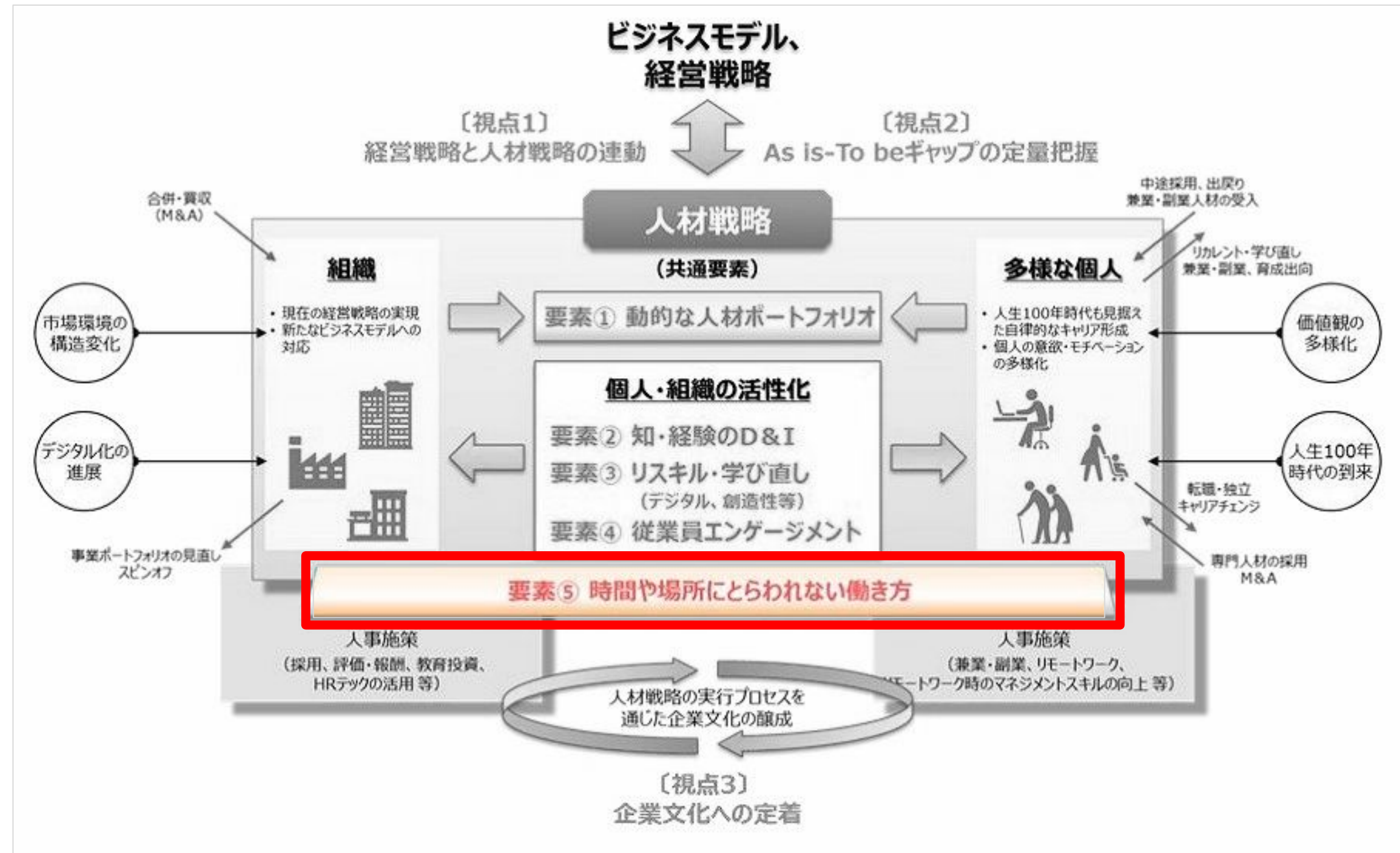
③ PX (People Experience) 機能ご紹介

「働き方」の可視化・強化

④ FX (Facility Experience) 機能ご紹介

「働く場」の可視化・最適化

人的資本経営のガイダンスとなる経産省「人材版伊藤レポート」でも、人材戦略の“土台”として⑤時間や場所にとらわれない働き方が挙げられています。



出典：非財務情報可視化研究会 人的資本可視化指針 経済産業省「人材版伊藤レポート(2020年9月)」を基に作成

フレキシブルワークは、
コロナ後の暫定的な形態ではなく、
制度として社会に定着していくと予想されます。

イギリスのフレキシブルワーク法の影響を受けてシンガポールにも波及。
この流れは、日本の働き方関連制度へも影響が及ぶ可能性があると考えています。

シンガポール人材省は4月16日、政労使3者の代表が策定した、
在宅勤務など柔軟な勤務形態（FWA：Flexible Work Agreement）
のガイドラインに関する提言を受け入れたと発表

ガイドラインではFWAを3つの勤務体系と定義している

1. 自宅などオフィス以外での勤務
2. 出退勤時間を柔軟に変更できるフレックスタイム制
3. ジョブシェアリングやパートタイムなど
さまざまな業務量とそれに見合った報酬での勤務

Singapore mandates formal FWA request process for employers

Employers must give their decision on any flexible work arrangement request within two months, with an explanation given for rejection.

By: [Champa Ha](#) | April 17, 2024

Topics: Hybrid Working | News | Singapore | Talent Management



日本でも2025年4月から
育児介護世代の社員へのフレキシブルワークを義務化する動きが出ています。

働き方の柔軟化措置

事業主が以下2つ以上を選択して講ずることが求められる

- 始業時刻等の変更
- テレワーク（10日／月）
- 短時間勤務
- 新たな休暇の付与（10日／年）
- その他働きながら子を養育しやすくするための措置
（保育施設の設置運営等）

参照

<https://keiyaku-watch.jp/media/hourei/202504-ikujikaigokyugyoho/>



では、フレキシブルワークのよりよい形とは何か。

その追究のためにAcallは、
人的資本経営の視点から「パフォーマンス」を
再定義することからはじめました。

Acallでは、パフォーマンスは短期的な生産性ではなく、長期的に実現し続けるものと捉えて以下のように定義しています。

$$\text{パフォーマンス} = \text{生産性} \times \text{ウェルビーイング} \times \text{エンゲージメント}$$

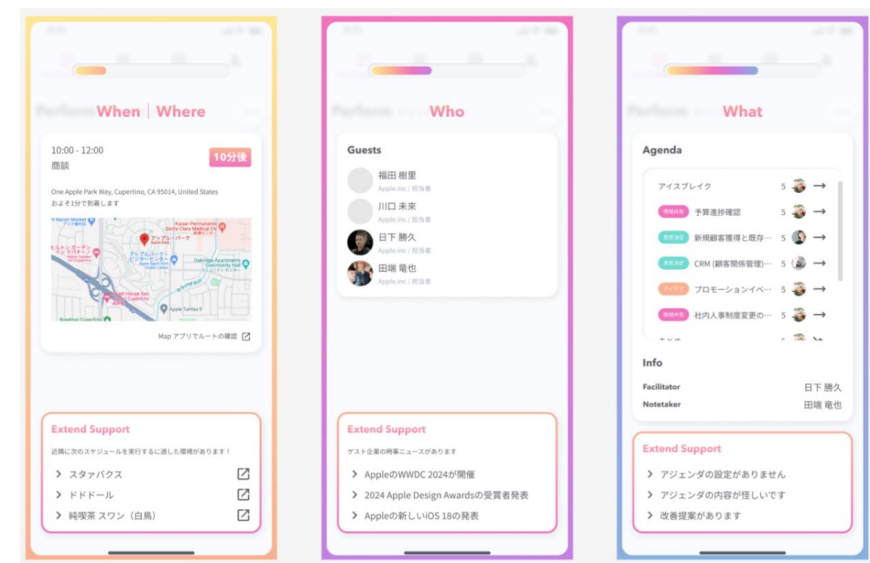
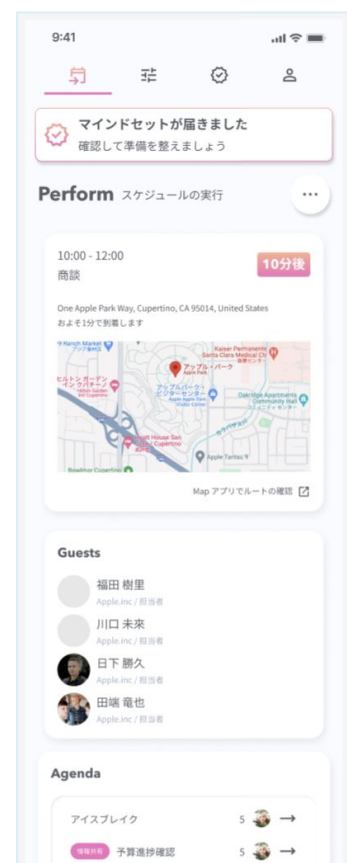
業務での高い生産性はもちろん、プライベートを含めたウェルビーイング、高いエンゲージメントの総和としてのハイパフォーマンスを引き出すことが人的資本経営の本質であり、持続的な企業価値向上には重要です。

持続的ではない働き方で一時的な生産性を引き出しても、ウェルビーイングやエンゲージメントが低下し、人のコンディションに悪影響があると持続的な企業価値向上に繋がりません。

パフォーマンス向上を目指す企業と共に最前線を走り続け、働く環境をデザインする2つの事業とサービスを提供しています。

People Experience (PX)

ワーカーの体験や人と人の関係をみつめ、最適な組織と従業員体験を構築するコンサルティング・コーチングサービスとプロダクトを提供



Facility Experience (FX)

プロフェッショナルな知見とテクノロジーを活用して、ファシリティ体験を継続的に向上させるプロダクトとデータ基盤の整備



はたらく情報を集約・同期・分析しフィードバックループを形成することで、
パフォーマンス向上につながる働く環境をデザインします

People Experience (PX)

1

ミドルマネジメント負荷軽減にもつながる
自律的な働き方促進

2

企業・従業員のベクトルを合わせる
働き方尺度の確立

3

オンライン・オフラインで複雑化する
生産性の高い働き方へのカイゼン

Facility Experience (FX)

1

総務機能(ファシリティマネジメント)の出社を前提にしない
無人化・省力化

2

オフィス立ち会い業務削減
ファシリティ遠隔管理

3

フリーアドレスの実現、コミュニケーション活性化
リアルオフィスの業務体験向上

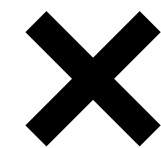


人的資本経営に資するデータ/KPIのかけ合わせが可能

Acallは毎日の行動ベースで「はたらく」を可視化し、
人的資本経営の推進をサポートします。

各企業様保有データ/KPI

Acallと連携が有効なKPI



Acall取得データ

年に1,2回の調査

エンゲージメント調査

生産性（一人当たりの売上）

エンゲージメントスコア

メンタルスコア

離職率

.....



毎日の行動ベース

People Experience

働き方スタイルのデータ取得

Facility Experience

働く場における業務データ取得

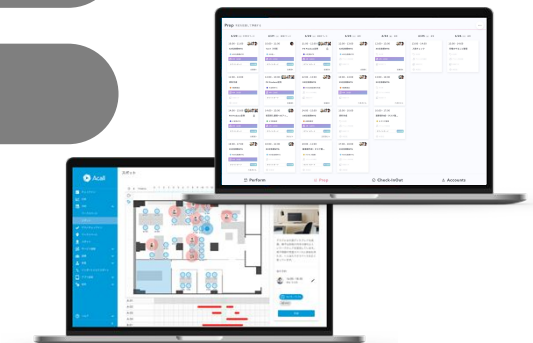
オンライン/オフライン偏在率

デイリーコンディション推移

会議や1on1時間の推移

コラボレーション頻度

.....



① Acallのご紹介

会社の概要

② Acallの課題認識

人的資本経営時代における働く「人」と「場」のマッチングの必要性



③ PX (People Experience) 機能ご紹介

「働き方」の可視化・強化

④ FX (Facility Experience) 機能ご紹介

「働く場」の可視化・最適化

People Experience機能による人的資本経営への貢献

パフォーマンス基準でフレキシブルな働き方を従業員と企業が共有することで
持続可能で幸せな働き方を支援いたします。

ミドルマネジメント負荷軽減

自律的な働き方促進

- 自律的な働き方へのエンパワーメント
- マネジメントコストの削減

企業・従業員のベクトルを合わせる

働き方尺度の確立

- 出社・リモートの選択基準の確立
- オンライン・オフライン来訪・往訪の選択基準の確立

オンライン・オフラインで複雑化する

生産性の高い 働き方へのカイゼン

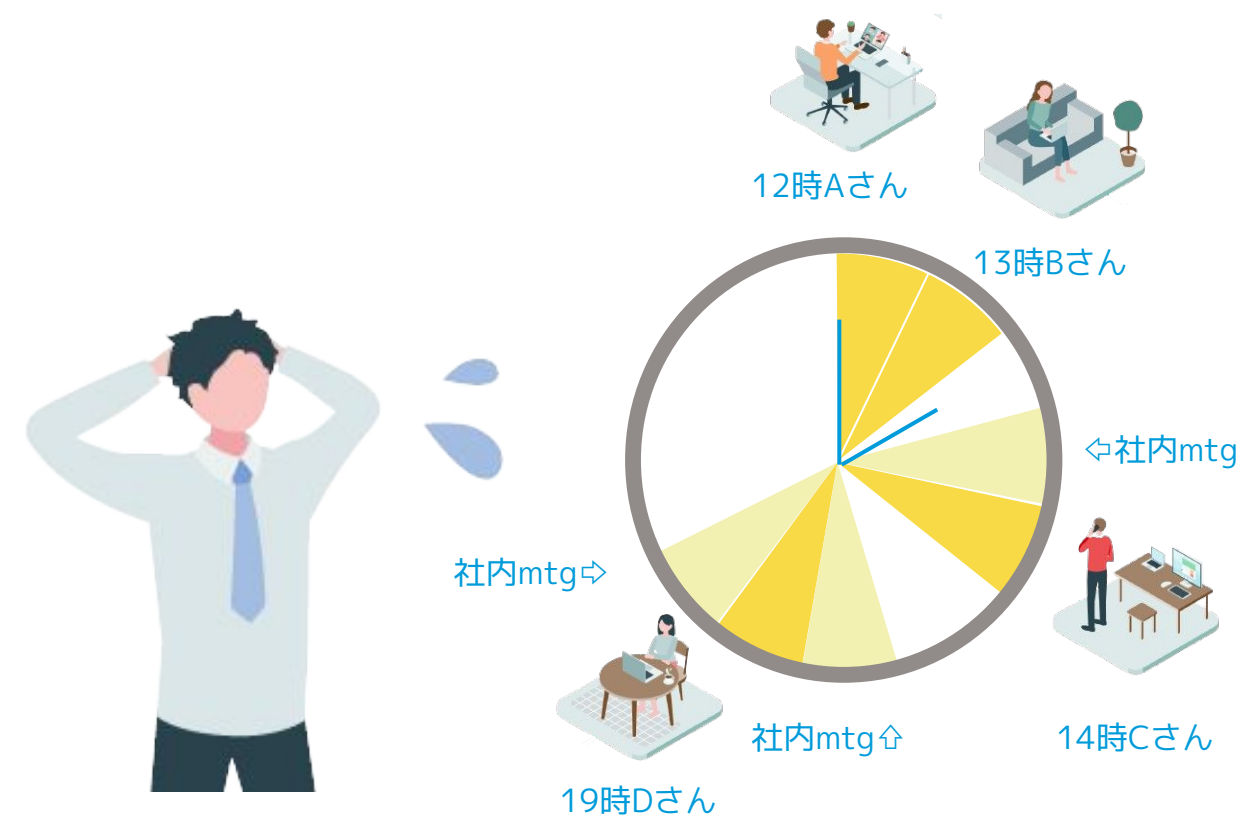
- 「なんちゃって」会議の削減
- 事前準備の習慣化やワークエンゲージメント向上



**ハイブリッドワークにより直接的なコミュニケーションは減り、
コミュニケーション齟齬、体験の悪い1on1などが生まれることも多くなっています。**

リモート会議の手軽さによる会議数の増加

目的が不明瞭な会議も多いことに伴う、
それぞれの会議の質の低下

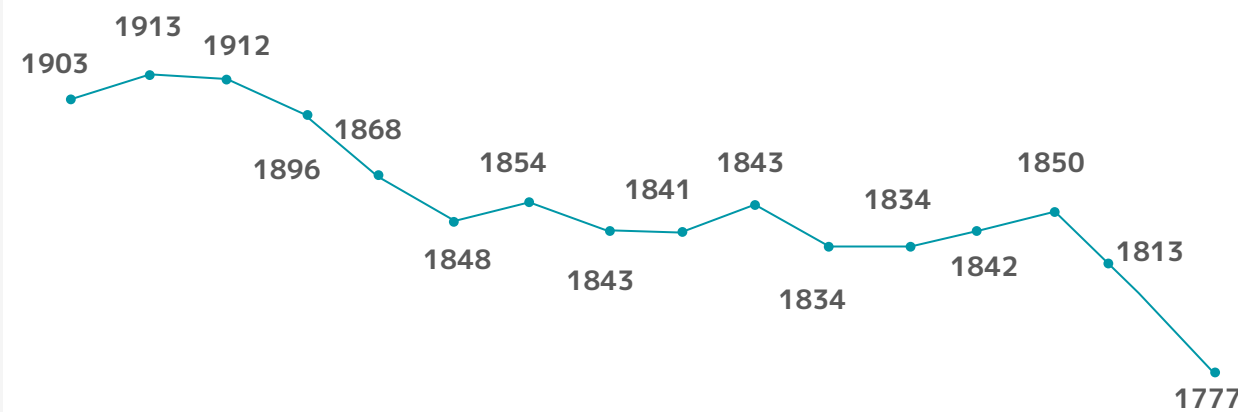


リモートができることで会議は安易にセットされ、会議だらけに。

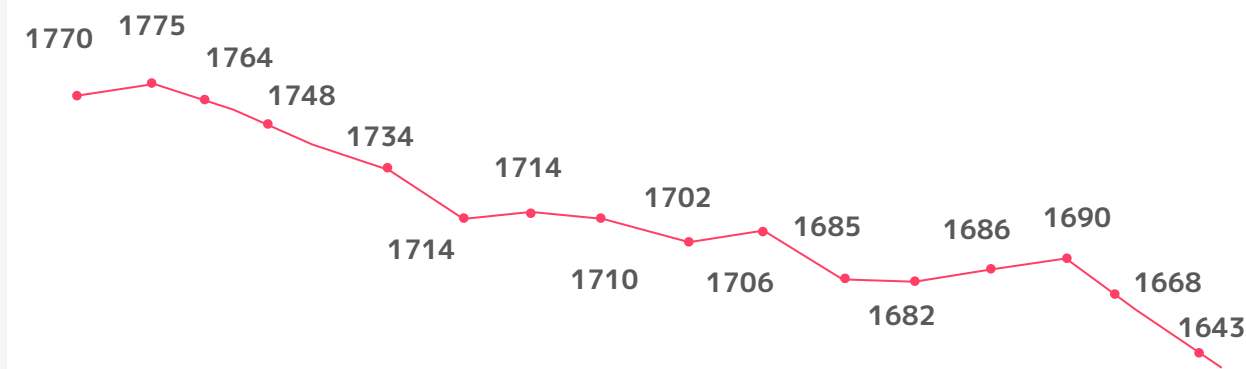
目的のわからないミーティングも多く、ひとつひとつの質は低下しています。

年間総実労働時間の推移（パートタイム労働者を含む）

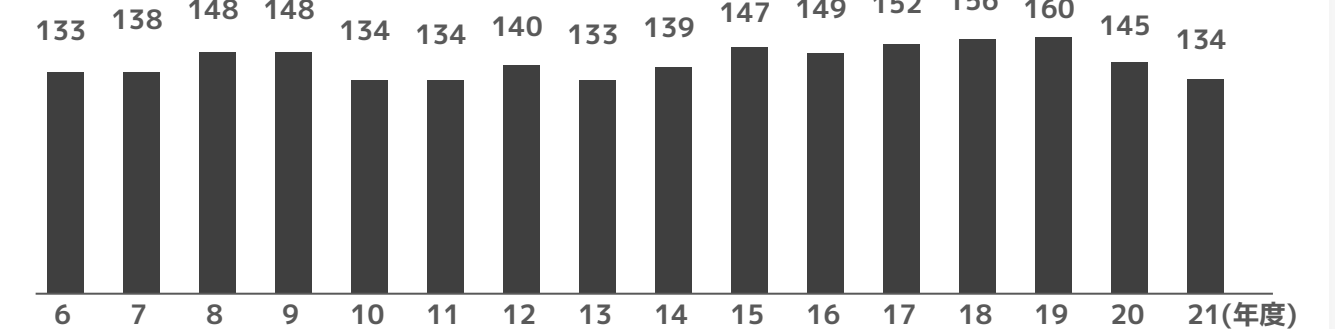
総実労働時間



所定内労働時間



所定外労働時間



(資料出所)厚生労働省「毎月勤労統計調査」*事業所規模30人以上

**業務量が増加するのに対して業務時間は制限され、
これまで以上にコミュニケーションや提案書作成などの時間が減っています。**

ハイブリッドが進み

それを補うように

接点を増やすことを
目的に増えていく会議

しかし

会議は安易に
セットされすぎて
質が低くなる

リアルな接点不足から
生まれる齟齬

**組織内での悪循環が
生まれてしまっている**

しかも

業務時間は制限され
質の低い会議ばかりで
1日が終わる

それにより

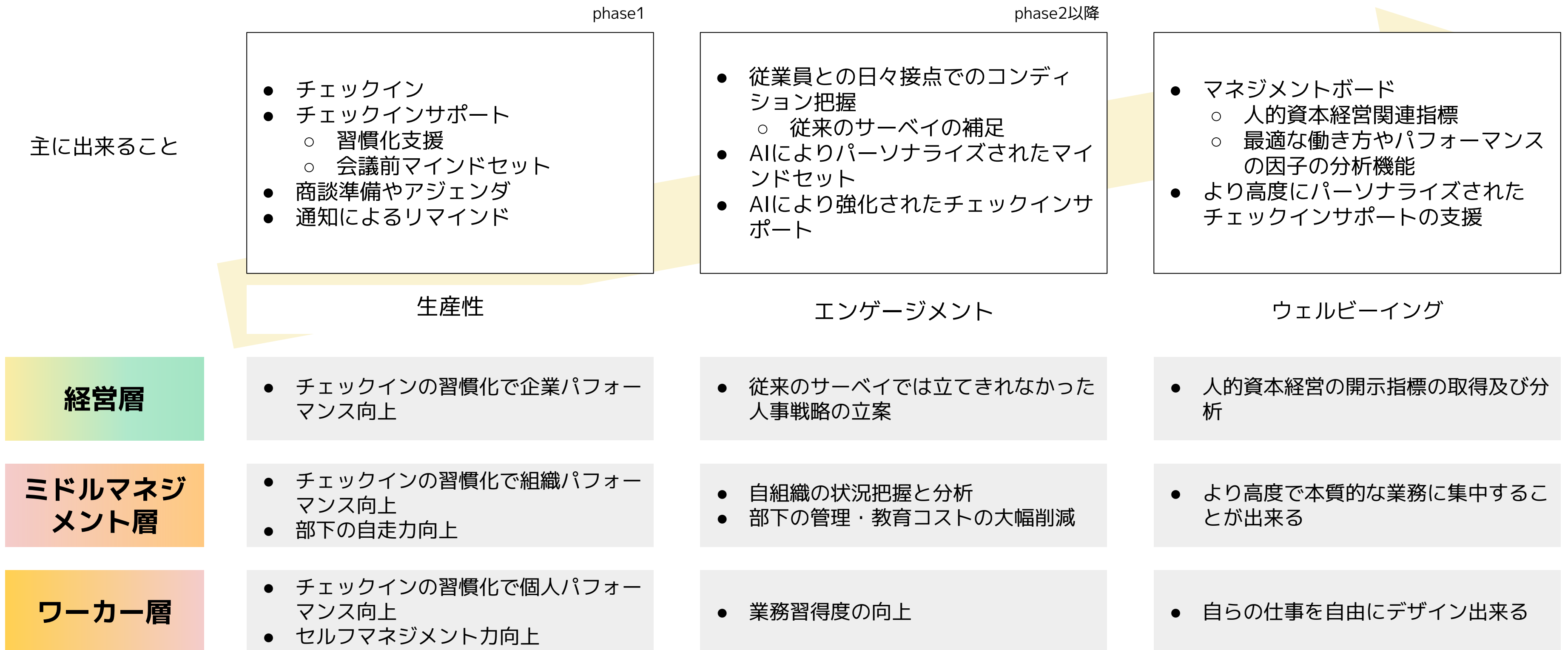
1on1などで認識を
合わせる機会が減少

さらに大きく

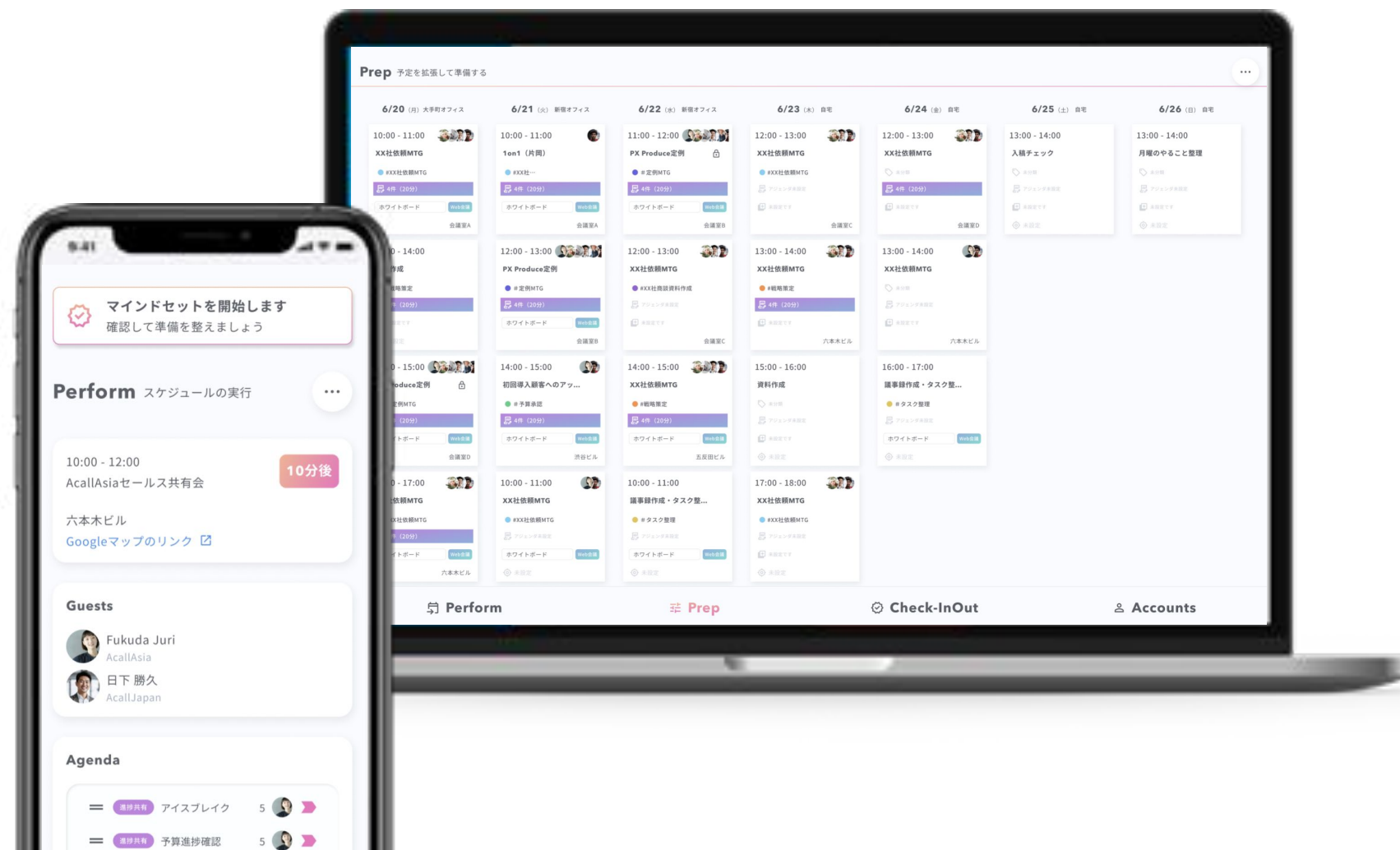
Acall Personalの価値（プロダクト構想と目指している世界観）



パフォーマンス基準でフレキシブルな働き方を従業員と企業が共有することで
持続可能で幸せな働き方を支援いたします。



チームのためのセルフマネジメントツール「Acall Personal」



パフォーマンスを高めるマインドセット

人的資本経営を実現するPDCAを促進

AIレコメンド

5W1Hの情報をもとにAIがレコメンド

セルフマネジメントの醸成

スケジュール、コンディションの自立支援

会議や1on1の質を向上

ミーティングの事前準備をAIがサポート

**ハイブリッドワーク時代の新たな働き方に必要な要素が揃った、
チームのフレキシブルな働き方をエンパワーするセルフマネジメントツール**

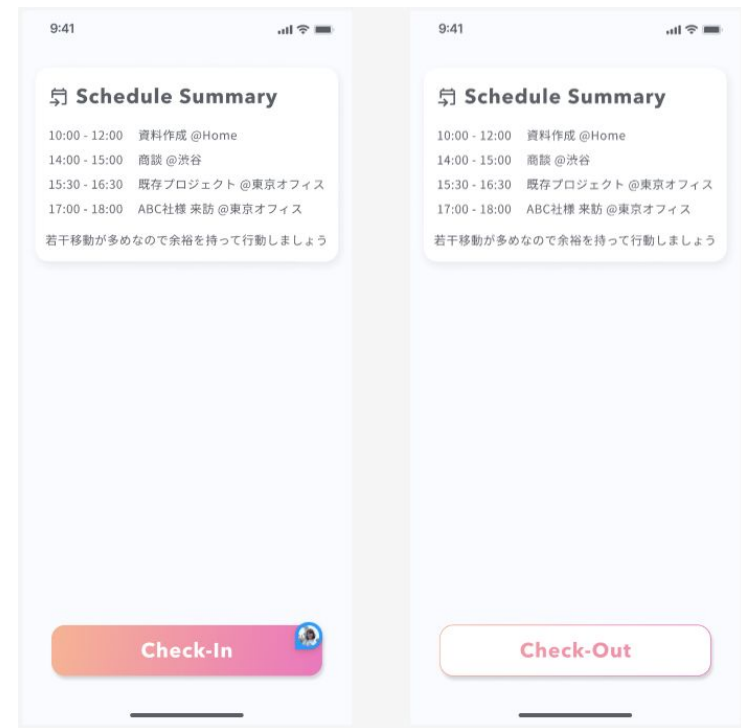


(参考) 開発検証中デザインモック

あさ、業務開始時に

デイリーチェックイン

当日の予定を簡単に把握



ミーティングの直前に

チェックイン

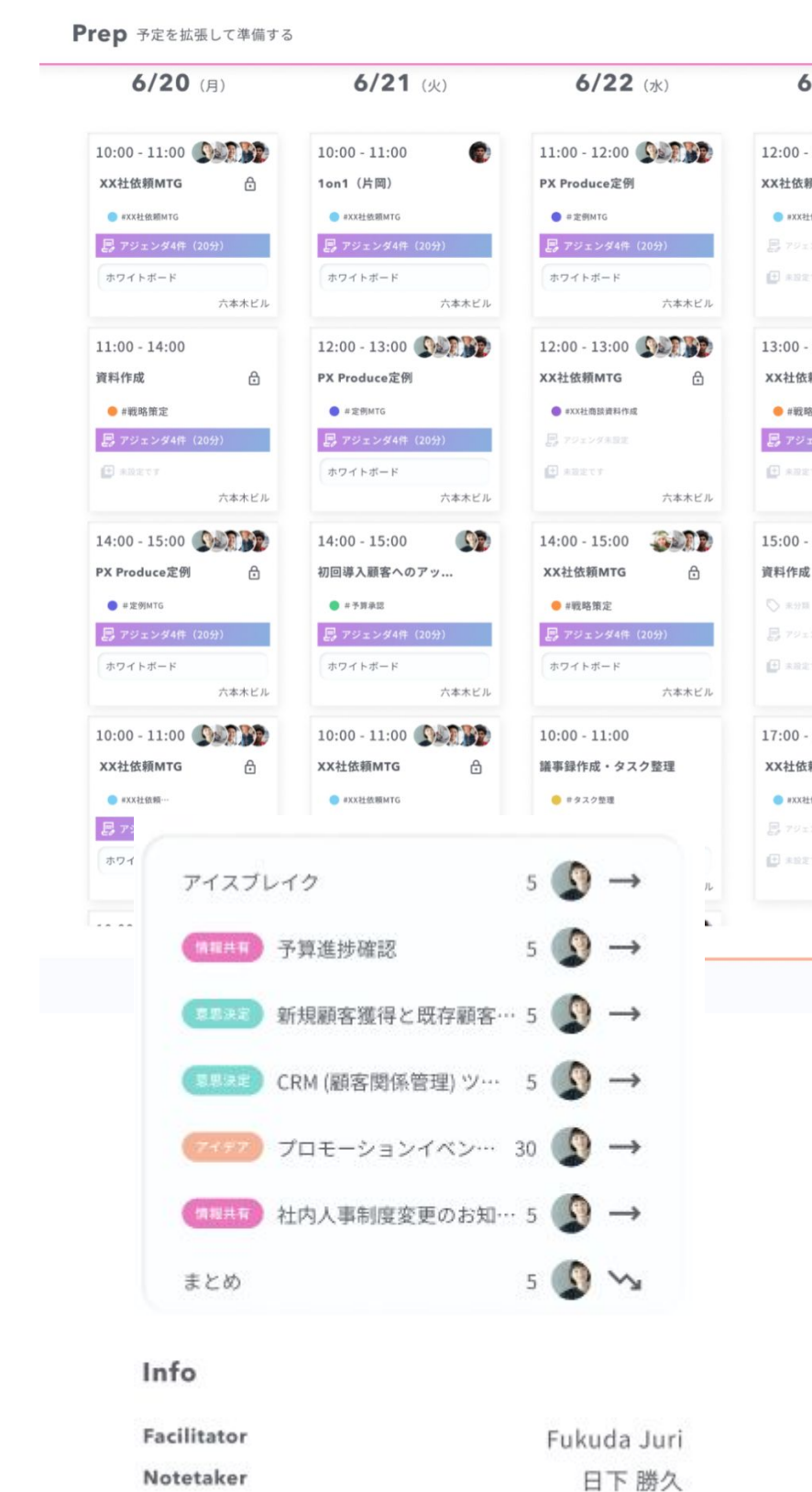
仕事に臨むマインドの5W1Hに着目し、何を行うミーティングか簡単に把握



空いている時間に

チェックインサポート

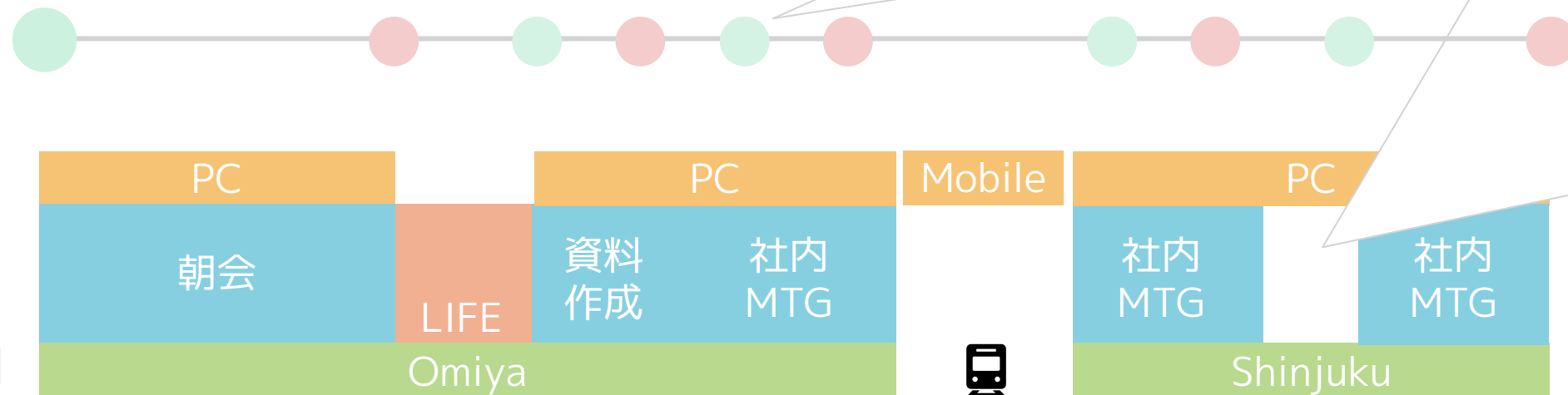
アジェンダ作成などの事前準備をサポート



適時

リマインド・通知

ミーティングの事前準備の漏れなど各種通知



Acall Personalの体験

営業部所属 20代社員 の場合

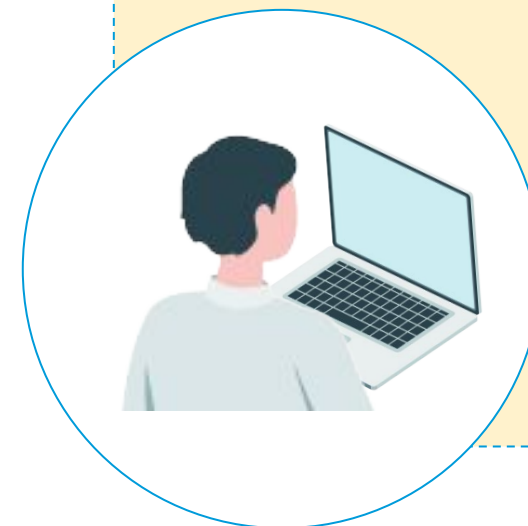
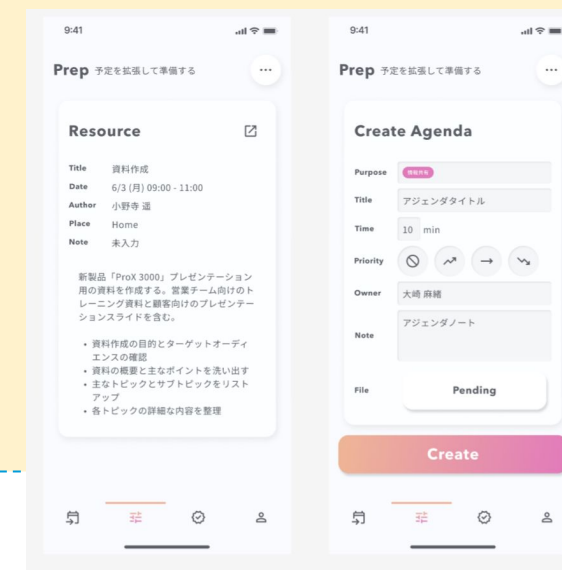


profile

| | | | |
|-----------|-------|-----------|-------------|
| 名前 | 中野 裕太 | 経歴 | 今年からリーダーに昇格 |
| 性別 | 男性 | 趣味 | 飲み会、テニス |
| 年齢 | 28歳 | | |
| 職種 | 法人営業 | | |

カレンダーと連携された予定から事前に必要な準備を実施。
Acall Personalが打ち合わせの成否を分けるアジェンダ整備等の事前準備の補助をしてくれる。

Acall Personalで
簡単に事前準備



開発構想中機能も含まれます。



Acall Personalの体験

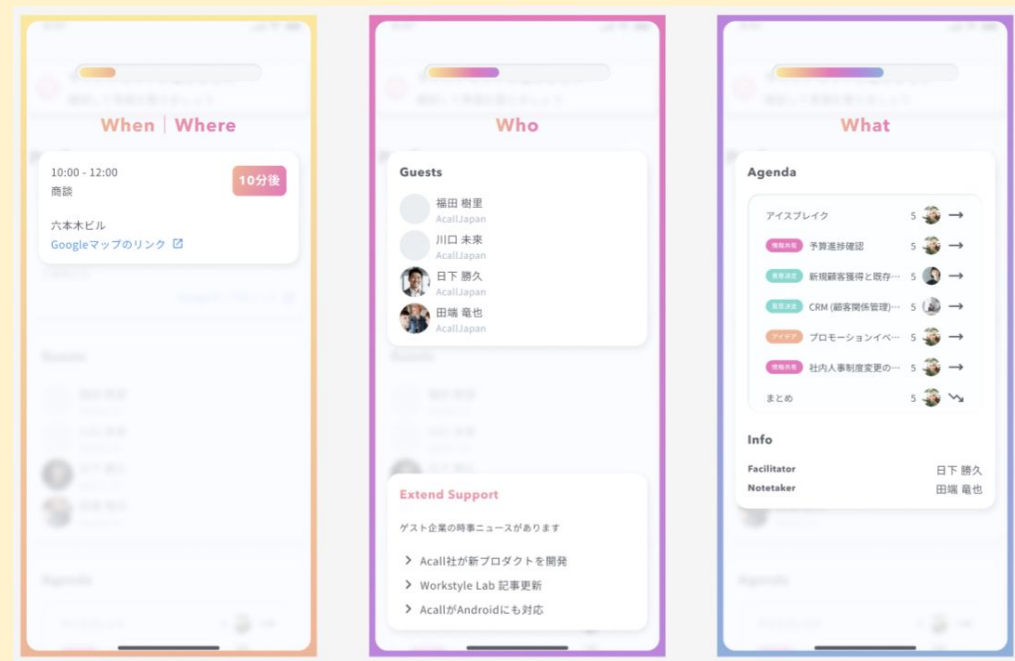


出社したらDaily Check inで今日の予定を確認してチェックイン！
今日1日をどんな日にするか自らデザインしよう。

Acall Personalで
簡単にチェックイン



事前に整理されたアジェンダとAIが届けるマインドセットによる会議がスムーズに！



Acall Personalの体験



顧客都合により商談がキャンセルとなり、急な余白時間が出た。Acall Personalから次のMTGのアジェンダ確認やMTG前の事前擦り合わせ、先の会議に向けた作業等をレコメンドで提案。急なスケジュール余白も効率的に過ごせた。

AIがレコメンドにて提案

外部商談においても事前準備を行うことが非常に重要。Acall Personalを活用し顧客の近況を商談前にAIで受信

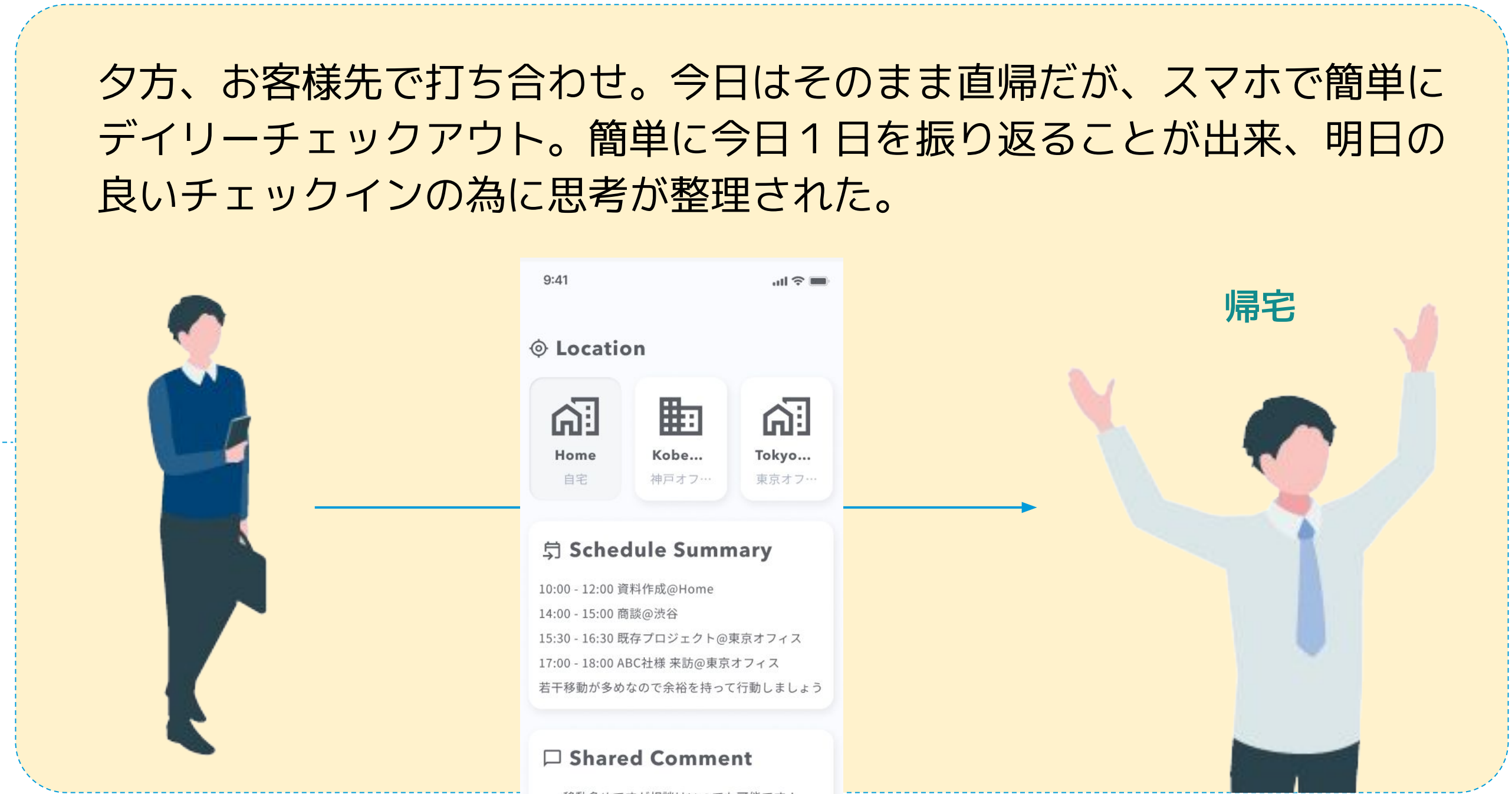
Mgrとの事前準備の確認も簡単にできる



Acall Personalの体験



夕方、お客様先で打ち合わせ。今日はそのまま直帰だが、スマホで簡単にデイリーチェックアウト。簡単に今日1日を振り返ることが出来、明日の良いチェックインの為に思考が整理された。



帰宅



① Acallのご紹介

会社の概要

② Acallの課題認識

人的資本経営時代における働く「人」と「場」のマッチングの必要性

③ PX (People Experience) 機能ご紹介

「働き方」の可視化・強化



④ FX (Facility Experience) 機能ご紹介

「働く場」の可視化・最適化

Acallとは — ハイブリッドワークを実現する主な機能 —

会議室チェックイン



- 会議室予約、管理に関する省力化、遠隔管理 (AI実装)

会議室



スポットチェックイン

(リモートワーク状況の可視化)



- 働く場の可視化、遠隔からの出社状況の確認 (コミュニケーション活性化)

自宅



コワーキングスペース



受付チェックイン



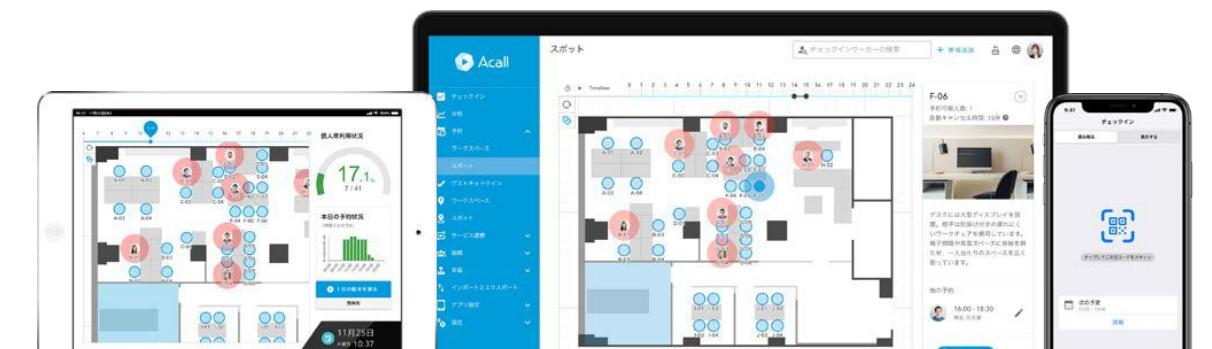
エントランス

- 受付無人化、来客対応の省力化、遠隔管理

フリーアドレスエリア

スポットチェックイン

(座席予約機能)



無人化・省力化を軸にしたFM機能の業務効率化と、
オフィスを中心としたリアルな場での体験向上を実現します

総務機能の出社を前提にしない

無人化・省力化

スポット

受付・ゲート

受付無人化、総務業務の省力化
(会議室調整・予約、ファシリティ管理)

オフィス立ち会い業務削減

ファシリティ 遠隔管理

受付・ゲート

会議室

ゲート(鍵・入室管理)の遠隔操作、会議室予約などオフィス立ち会いの必要性削減

リアルオフィスの 業務体験向上

スポット

**出社状況確認、
部門を超えたコミュニケーション活性化**

ハイブリッド
ワークの促進
とパフォーマンス
向上

Facility Experience機能の体験



総務部所属 40代課長 の場合



profile

| | | | |
|----|------|------|----------|
| 名前 | 鈴木 栞 | 家族構成 | 既婚、2児 |
| 性別 | 女性 | 趣味 | 家族とピクニック |
| 年齢 | 45歳 | | |
| 職種 | 総務部 | | |

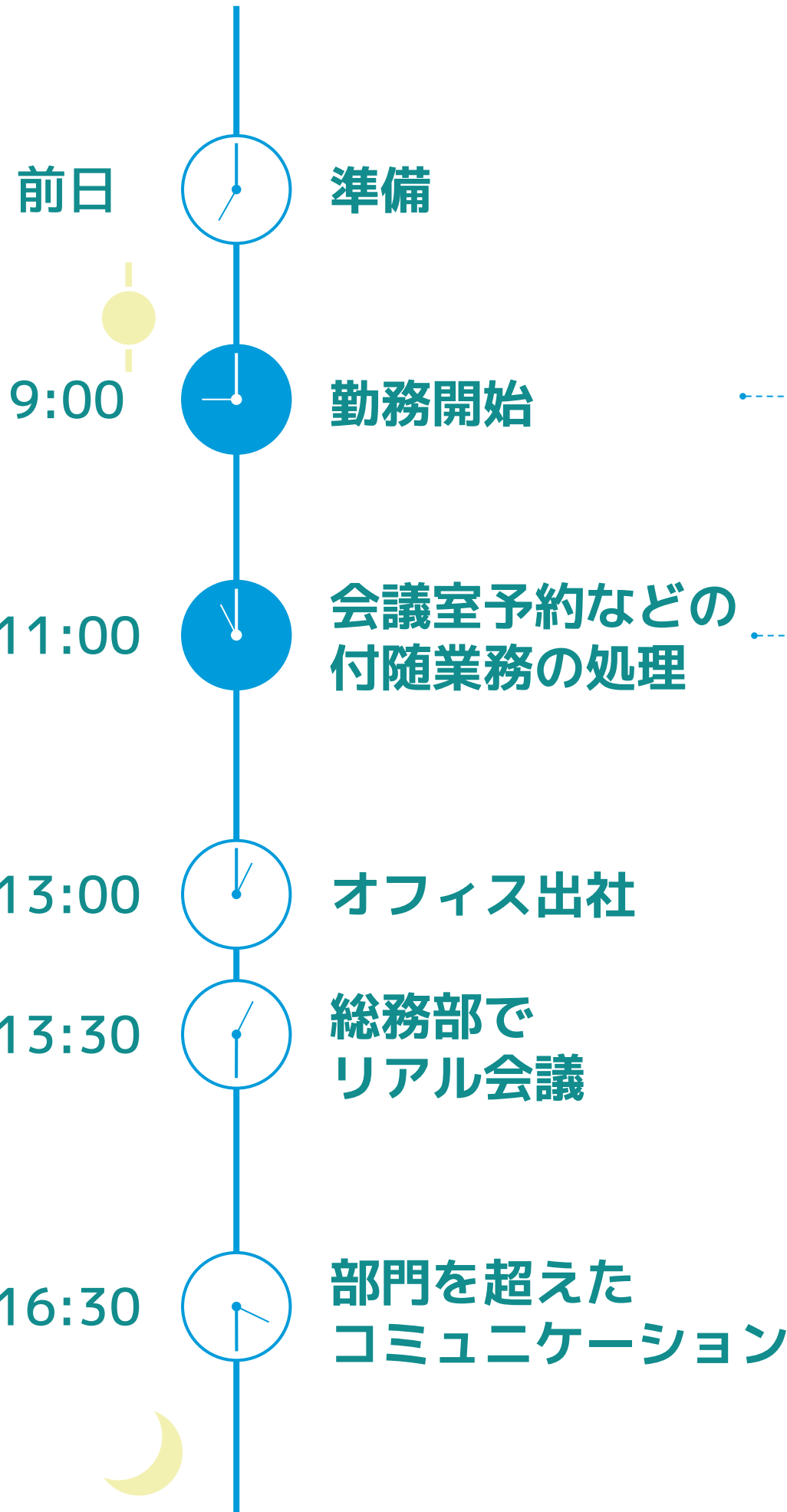
明日の午前中はリアルワークの必要性のある業務がないため、用事のある夫に代わって子どもを小学校まで送り、午前中は自宅でリモートワーク、午後からオフィス出社をすることを決める。



Acall Portalで
居場所の共有



Facility Experience機能の体験



子どもを小学校に送ってから業務開始。
Acallで荷物受取通知が来たので、Facetimeで通話してGate開錠。
かつて出社して対応していた荷物受取・来客対応が自宅で完結。

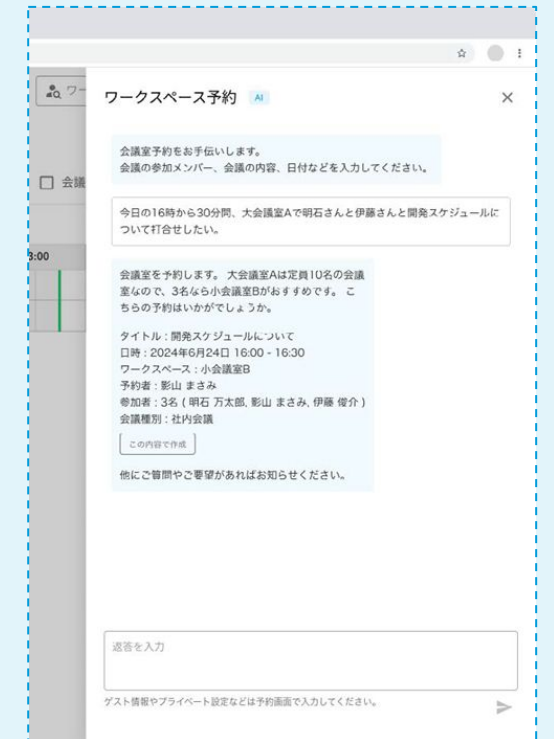


Acall Receptionで
荷物受取を完了



部長より会議室予約依頼があり、自宅にてAI機能で即座に予約完了。
備品の問い合わせもあったが、備品予約機能で自身で予約するよう返信。
かつて時間を掛けていた業務が効率化され、
午後の会議準備に時間を掛けられた。

Acall MeetingのAI機能で
会議室予約を完了



Facility Experience機能の体験



出社後、Wi-Fiに接続されて自動でチェックイン。
時間が空いたので、捺印を欲しかった課長の座席を検索して無事に対応してもらうことができた。

Acallで
居場所検索

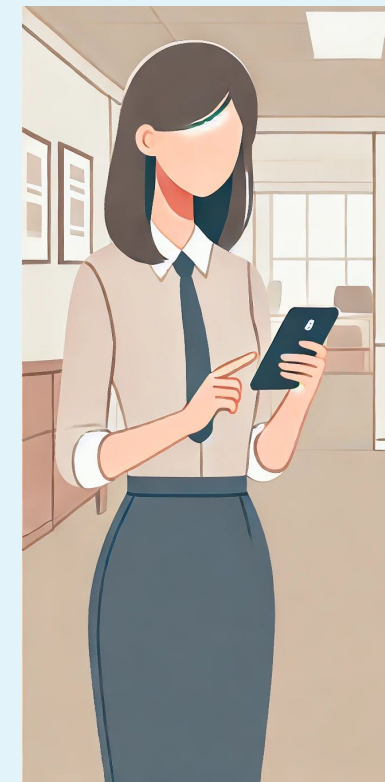
総務部メンバーでオフィスレイアウト変更後の活用状況について、リアル会議。会議室にチェックインしてすぐに議論をスタート。ファシリテーション機能を使うことでタイムマネジメントを意識しながら質の高いリアル会議が実施できた。

Acall Meetingで
会議のファシリテーション

Facility Experience機能の体験



Acallのデータを分析して総務部が設置したコミュニケーションスペースに移動して仕事をしていたら、同期である人事部の田中さんとバッタリ出会う。人的資本経営についての人事部の取り組みを共有してもらい、新しい気付きを得られた。



Acall Mobileで
明日の座席予約

子どもお迎えに間に合う時間に会社を出ながら明日、早速部長に相談したいので帰宅途中で部長の近くの座席を予約。



Appendix

ダッシュボード上で**誰がどこにいるか**や**スケジュール**を可視化し オフィス外からも**出社状況**を確認可能。従業員の**コミュニケーション活性化**を実現します

「いつ」「だれが」「どこで」のリアルタイム同期

- 予約状況やチェックイン状況は、ダッシュボードで可視化
- チェックイン状況の一覧からスポットやワーカーをクリックすると、オフィスのどこに在席しているかを確認可能

ワーカーの「今」が簡単にわかる

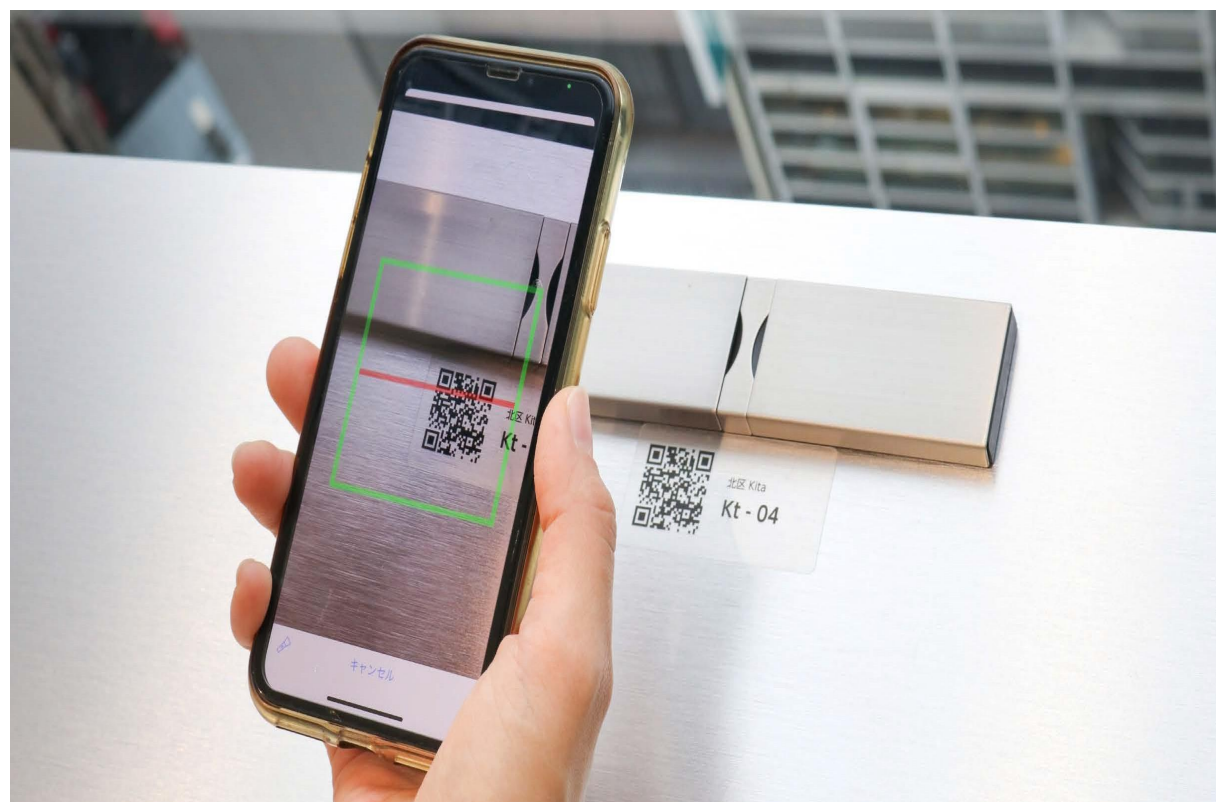
- ワーカーが「どこにいるか」、「現在と前後の予定」、「Teamsプレゼンス」等を一画面でまとめて確認できる
- チャットツールでダイレクトメッセージを送ることも可能



従業員のチェックインにかかる負担を軽減するために、Webブラウザやスマホアプリによる予約・チェックインに加えて、QRコードやWi-fiによるチェックイン体制を構築しています。

QRコードでのチェックイン

- 座席に設置されたQRコードを読み取ることでその座席にチェックインできます。
- 同時に複数スポットにチェックインすることも可能です。



Wi-fiでのチェックイン

- オフィスのSSID/BSSIDを登録すると、Wi-Fi接続時の自動チェックイン、チェックイン可能スポットの通知設定ができます。
- チェックインの手間削減に有効です。

| 事前に予約している場合 | 事前に複数予約している場合 | 事前に予約していない場合 |
|-------------|---------------|--------------|
| | | |

BSSIDを分けることでエリア／部屋ごとの区別も可能

予約用端末からのチェックイン

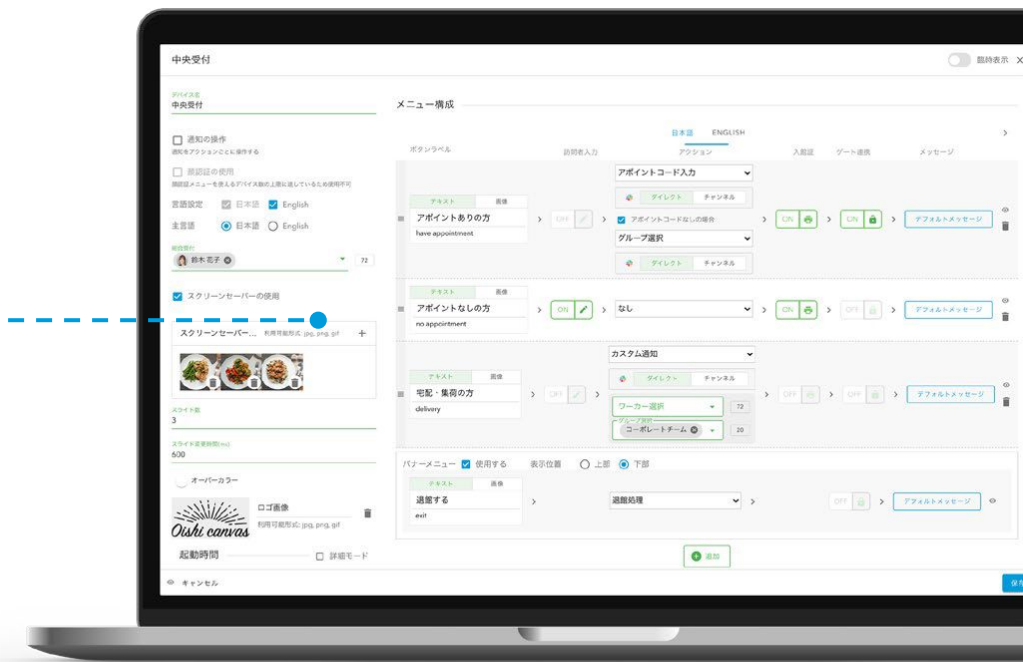
- サイネージを兼ねた端末を設置すると、事前予約無しで、座席を選びチェックインできます。(利用者の記録も可能)
- チームで島を確保する場合には、代表者が複数スポットの一括予約もできます。



受付を無人化（あるいは受付業務を省力化)し、 遠隔からの来客応対も可能にします。

「Acall Reception」でiPad自動受付

- 無人受付にも対応し、取次業務の削減や受付対応属人化の解消に役立ちます。
- **メニュー内容、連携サービス、デザインまで自在にカスタマイズ**できるので、貴社の運用に合わせた受付フローを構築可能です。



ゲスト受付のフロー例

ゲスト情報・対応ワーカー・入退館履歴の記録が可能に！

認証



来訪通知



入館証発行



ゲート解錠



ゲストの認証と同時に入館証を自動発行することで、受付業務をスマート化します（遠隔からも操作可能）。

その場で入館証を自動発行

- ゲストの認証と同時に入館証を印刷できます。
- アポイントの情報を引き継ぐため、面倒な記帳は不要です。



ゲート連携によるスムーズな認証でセキュアに解錠

- Acall Receptionにゲート連携を組み合わせることで、ゲストもワーカーも運用に適した認証方法で入館できます。
- 入退館は自動で記録されるため、セキュリティ管理も万全です。

ゲストの認証例

- QRコード
 - ・ アポイントコード
 - ・ 定期パス
 - ・ 入館証
- 通話
 - ・ テナント内線電話
 - ・ FaceTime

ワーカーの認証例

- QRコード
 - ・ ワーカーコード
- 暗証番号
 - ・ ワーカーコード



自動ドア・フラPPERゲート・電子錠・エレベーターなど

会議室の予約・ゲスト招待もAcallで完結、 QRコードでのチェックインで利用者のデータ蓄積やカラ予約の自動開放も

Acall Meetingで即時利



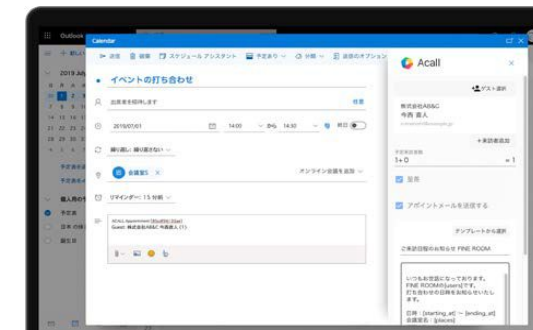
- ・空いている部屋前から気軽に利用
- ・QRコード認証で利用者の記録可能

Acall Portalから予約



- ・空いている会議室を一覧
- ・清掃やお茶出しのチェックが可能

Outlook カレンダーから予約



- ・慣れた操作の流れでAcallと連携
- ・アポイントメール送信まで完結

Acall Mobileから予約



- ・移動中の予約に便利

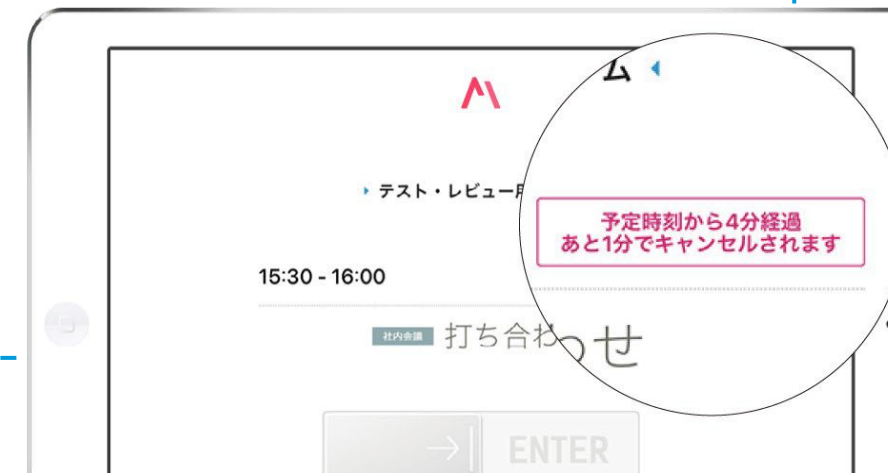
チェックイン/アウトデータの実績取得

- 予約した会議は会議室アプリに表示
- 入退室時にチェックイン/アウトの操作をすることで、予約だけでなく**実際の入室時間もAcall Portal・カレンダーに同期され、入退室ログの記録が可能**



会議室のカラ予約を削減

- 予約から一定時間を過ぎてもチェックインされない会議室を自動で解放
- 来客キャンセルなどにて発生するカラ予約の問題を解消



自然言語処理により、参加者の会議室予約に発生するアクションを減らし
従業員の工数削減、生産性向上を実現いたします。

今までの会議室予約

会議参加者の空いている日程をOutlookカレンダーで探すだけで大変なのに、候補日に全員が入る会議室を会議室システムで予約するのは面倒くさい…
全部で10分以上時間がかかっている…



これからの会議室予約

AI会議室の専用チャットで日程・人数・目的を入力すれば、自動で会議室予約まで完結可能！
1分以内に全ての作業が完結！



日程調整・会議室予約に要していた無駄な時間を削減して、本来注力すべき仕事に時間を使うことができる！

会議室内に設定しているiPadがアジェンダに応じた**タイムマネジメント**を代替し、**会議の目的達成、会議時間の削減**を実現いたします。

今までの会議体験

会議のアジェンダに沿って議論を進めたいが、長時間話す人がいて、時間通りに進められない…！
自分からは言いにくい…！

本日のアジェンダ

- 1 前回の振り返り (5分)
- 2 議題A (15分)
- 3 議題B (20分)
- 4 本日の決定事項 (5分)

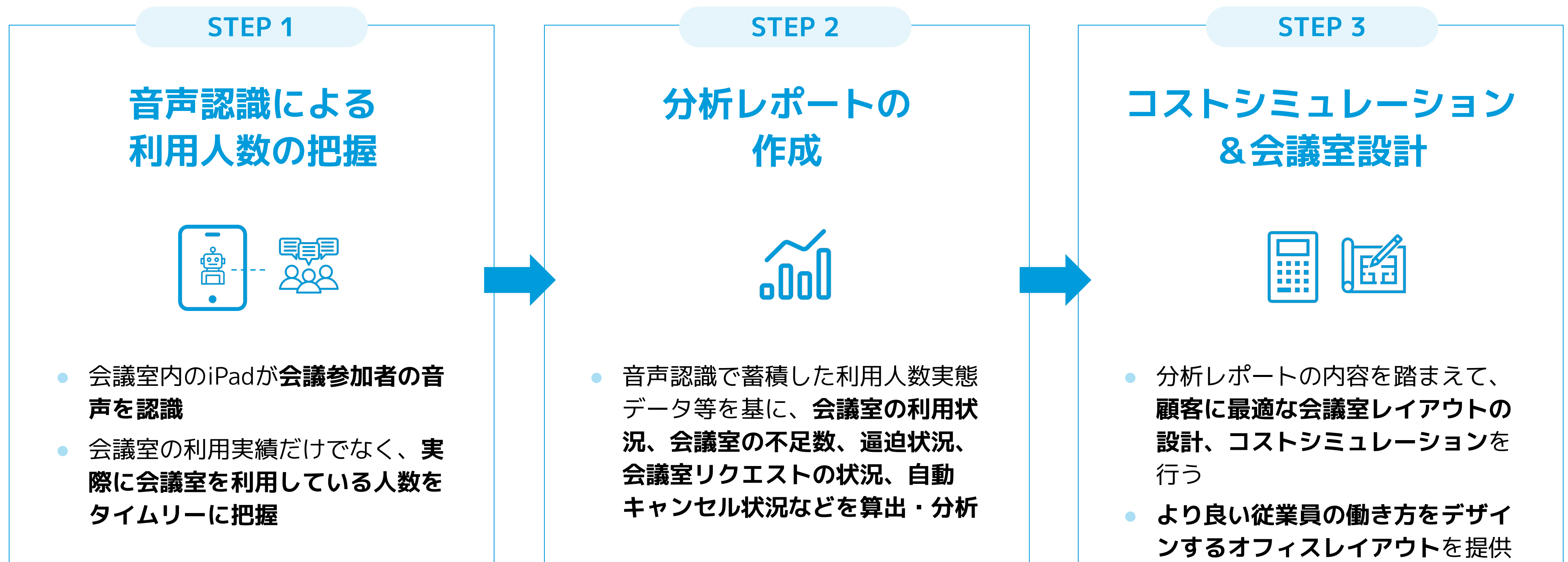
これからの会議体験

iPadの音声通知により、アジェンダに沿った**時間通りの会議進行**ができる！

タイムマネジメントをオフィスファシリティが実施することで、従業員の会議体験が変化！



会議室利用状況をiPadの音声認識で自動把握。 実態を把握・分析し、オフィスファシリティの最適化に貢献します。



経営陣 (1/2)



Founder / CEO
長沼 齊寿

Singapore

2004年より日本IBMでITエンジニアおよび金融市場向けIBMグローバルソフトウェアの日本国内でのコンサルティングセールス職等を経て、2010年に当社を設立。企業向けソフトウェア開発事業、メンタルヘルスwebサービス事業等を経て、2016年7月に現事業を開始。



CFO
神尾 太郎

Fukuoka

PwCにて財務モデリングのアドバイザー業務を経験後、日系証券会社にてM&Aアドバイザーに従事。その後、官民ファンド、再生可能エネルギーファンドにて投資業務に従事。直近では、外資スタートアップの日本法人設立、コーポレートの統括、デット調達、また本国法人でのエクイティ調達を支援。2023年、経営企画マネージャーとしてAcallにジョインし、現在はCFO・コーポレートグループ統括を担う。



COO FX事業統括
松林 尚史

Tokyo

日本政策投資銀行、電通、マッキンゼー・アンド・カンパニーを経て、スタートアップ向けGrowth支援を行う(株)MIRARGOに立ち上げメンバーとして参画。経営戦略、マーケティング、法人営業経験を強みに、2023年5月に同社からAcallへ出向しSales & Marketing GroupのGeneral Managerを務め、2024年1月よりCOOとしてAcallへ転籍。



CRO PX事業統括
龍頭 聡

Tokyo

電通に入社し、マーケティング、経営再建や事業開発プロジェクトを経て、MIT Sloan SchoolにてMBA取得。その後、電通・電通デジタルの経営戦略、人事評価報酬制度、組織開発、出資協業を推進。外資プラットフォーム広告ビジネス立ち上げを経験後、Acallへ参画。

経営陣 (2/2)



Co-CTO 技術担当

Kobe

藤原 弘行

2001年にフリーランスプログラマーとして独立し、多数の開発プロジェクトに携わる。2010年Acall設立時に参画し、Acallの製品の立ち上げを主導する。Rubyを使ったWebアプリケーション開発を中心に、各種システムのアーキテクチャ設計・実装を行う。唎酒師(ききさけし)の資格を持つ。



Co-CTO 戦略担当

Tokyo

小川 正樹

NECネクサソリューションズ、ヤフー、リクルート、ベクトルにてSE、プログラマー、プロダクトマネージャー、プロダクトオーナー、事業責任者、CTOを歴任。100以上のサービス開発に参画後、株式会社cozreにてエンジニアリングとビジネスサイドを統括。2022年7月より株式会社contentoの代表取締役社長に就任。Acallには2022年7月からパートナーとして参画。



Co-CTO 組織担当

Tokyo

長谷川 敏行

2003年よりバックエンドエンジニアとして、金融システムや構成管理ツール、官公庁系システム、人材紹介会社向けSaaSシステムなど、多岐にわたるプロダクト開発を担当。その後CAMIにて携帯ゲームの開発、ミクシィにて広告配信・広告ソリューションの開発に携わり、DACではマネージャーとしてエンジニア組織の構築などを経験。2022年に開発チーム、PjMチームのエンジニアリングマネージャーとしてAcallに入社。